

「水辺のレジャーにおけるライフジャケットの着用と安全な使用」について

概要説明資料

<検討対象> ライフジャケット（固型式）

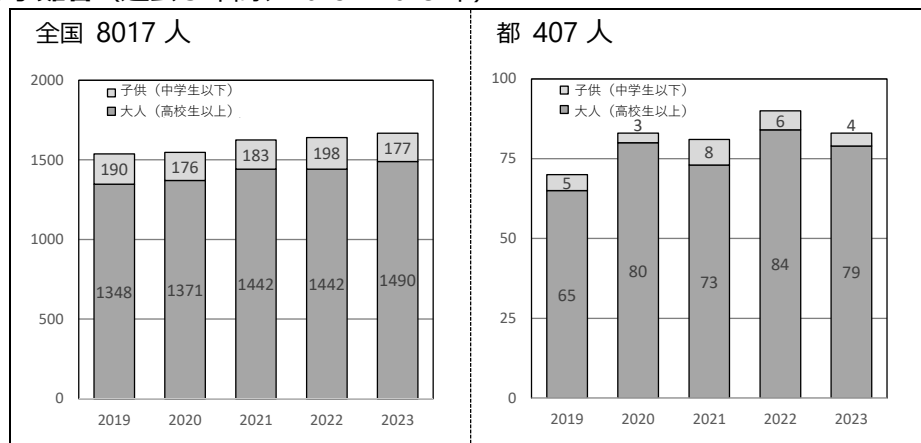
ライフジャケット：水上で呼吸可能な浮遊姿勢を保つために着用する上着型の浮き具
※救命胴衣以外のもの（フローティングベスト等）も含む

固型式：浮力体に固型物を使用しており、様々な場所で使用可能 → 詳細（資料 2）
比較的安価で点検等が容易なため、水辺のレジャーでの使用が多い

1 水難者数等の統計及び水難事例（資料 1）

<水難者数等の統計（警察庁、海上保安庁の統計をもとに作成）>

○水難者（過去 5 年間、2019～2023 年）



- ・おおむね横ばいで推移（全国約 1600 人／年、東京都約 80 人／年）
- ・夏期に水難者が多い（7、8 月の 2 か月間で、年間の約 1／3 が発生）
- ・死者・行方不明者の割合が高い（全国 45%、都 59%）

○ライフジャケット着用状況等

- ・海（レジャーに伴う水難時、過去 10 年間、2014～2023 年）

水難者の着用率	釣り中 25.7%、遊泳中 4.2%、磯遊び中 1.8%
---------	------------------------------

なお、着用時の死者・行方不明者の割合は、非着用時に比べて低い。

- ・川、湖沼等

統計からは確認できず → 着用率を実地調査（資料 5）

<水難事例（東京消防庁の救急搬送事例をもとに作成）>

○水難に伴う救急搬送者数（過去 5 年間、2019～2023 年）

東京消防庁管内 281 人

- ・重症度が高い人が多い（死亡又は重篤が全体の約 6 割）
- ・高齢者が多い（65 歳以上が全体の約 4 割、死亡・重篤の約 5 割）
- ・河川での発生が多い（全体の約 8 割）
- ・発生時の動作（不明を除く）は陸からの転落等が最多、次いで遊泳中

〔レジャー中の水難による救急搬送者数〕（カッコ内は死亡・重篤の人数）

レジャー中の水難と分かるもの（プールを除く、推測を含む） 35 (10)					
年齢	15 歳未満 10 (3)		15 歳以上 65 歳未満 19 (5)		65 歳以上 6 (2)
場所 活動内容	川				海
	水遊び・遊泳	釣り	ボート遊び	その他	ボート遊び
	24 (7)	5 (2)	4 (1)	1 (0)	1 (0)

※ 該当する救急搬送者数であり、この数値は発生割合を示すものではない。

〔レジャー中の水難事例〕

<川、水遊び・遊泳>

友人 3 名で川遊びをしていた。内 2 名が川に潜った後上がってこないことに釣り人が気づき、通報した。（溺水者 2 名：共に 10 歳代（15 歳未満）・重篤）

<川、水遊び・遊泳>

河川敷に家族で遊びに来ていた。1 名が川に飛び込み溺れた。その 1 名を助けるために家族 2 名が川に入ったがその 2 名も溺れてしまった。（川に飛び込み溺れた者：40 歳代・中等症、救助者 2 名：30 歳代・重篤、40 歳代・重篤）

<川、釣り>

友人と川に入水し釣りをしていた。友人が流されたのを助けようとしたところ、自分も流され溺水。目撃者が救急要請した。（30 歳代・重篤）

<川、ボート遊び>

友人とボートで川を下っていた際に何らかの理由によりボートが転覆し、川の中に投げ出された。川の中の何かに引っかかっているところを先行していた友人が発見し、通報した。（70 歳代・死亡）

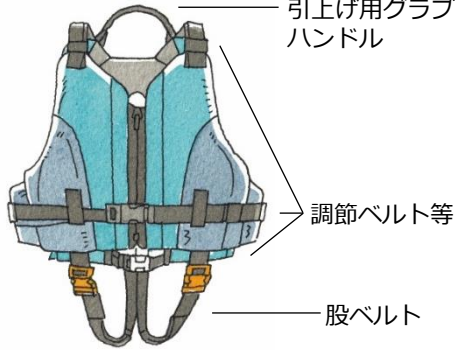
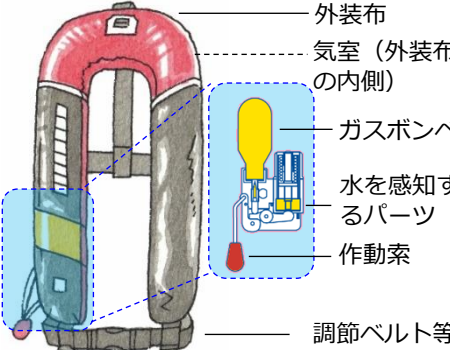
※ いずれの事例も、事故時のライフジャケット着用状況（着用又は非着用）は不明であった。

2 商品の種類と安全対策等（資料2）

＜ライフジャケットの種類＞

ライフジャケットを浮力体の構造で分類すると、固型式、膨脹式、気体密封式、ハイブリット式の4種類がある。水辺のレジャー活動では、主に固型式と膨脹式が着用されている。

○固型式と膨脹式の特徴

固型式	膨脹式
 引上げ用Grabハンドル 調節ベルト等 股ベルト	 外装布 気室（外装布の内側） ガスポンプ 水を感じするパーツ 作動索 調節ベルト等
様々な場所で使用可能 （岩場等での使用も問題ない）	使用に向かない場所あり （岩場等、気室に穴が空く恐れがある場所での使用に不向き）
膨脹式と比較して - 動きにくい - 夏に着ると暑い - かさばる - 点検が容易 - 常時水に入る活動に向いている	固型式と比較して - 動きやすい - 夏に着ても涼しい - コンパクト - 点検が複雑 - 一度膨脹させるとガスポンプ等の交換が必要

イラスト出典 / 河川財団「水辺の安全ハンドブック」 Illustration / 山下 航
/ マリンスポーツ財団「WEAR IT! ライフジャケット Q&A」

○固型式の形状等の特徴

大人用	子供用
- 股ベルトが有るものと無いものがある - フリーサイズのみとサイズが複数あるものがある - 釣りやカヌー等、活動内容に合わせてデザインされた商品もあり	- 股ベルトが有るものが多い - サイズが複数あるものが多い - 枕型の頭部浮力補助（ピロー）が付いたものもあり

＜性能基準＞

水遊びなどで着用するライフジャケットに強制規格はない。

このため、水辺のレジャー活動に用いられるライフジャケットは、性能基準が有るものと無いものが混在している。

＜商品の表示事項＞

固型式ライフジャケット 15 商品の本体や添付書類などの表示内容を調査。

使用等に関する注意事項については、本体や添付書類に詳細な記載があるものがあつた一方、記載が一切ないものもあり、商品による差が大きかった。

○使用等に関する表示内容（15 商品）

項目	記載内容	表示のある商品
着用方法等	着用方法	9
	仕様（パーツ、機能の説明）	9
	着用方法のイラスト	7
着用時の注意事項	股ベルトやファスナーを適切に着用すること	12
	着用前に破損や破れを含む不具合がないかを点検・確認すること	9
	自身のサイズにあった製品を着用すること	7
	子供が着用する際の注意、子供が着用しないこと	7
	所有者以外が着用する際には注意喚起をすること	2
	マリンウェア、ウエットパンツを着用すること	2
その他の注意事項	使用用途、使用用途以外の使用をしないこと	11
	万が一の場合に備えて通信手段を確保すること（118 番、119 番への連絡）	5
	飲酒をしないこと	4
	安全を 100%保証することはできないこと	4
	体温低下、熱中症に注意すること	4
	化学繊維のアレルギ-について注意すること	3
	悪天候時には水辺から離れること	3
	股ベルトを首に掛けないこと	2
	飛び込みをしないこと	1

3 法令・規格・基準と行政機関の取組（資料3）

＜法令・規格・基準＞

○着用義務等

- ・小型船舶乗船時を除くレジャーでは、ライフジャケットの着用義務はない。
- ・小型船舶の船室外の甲板上では、国の基準に適合した小型船舶用救命胴衣等の着用義務がある。また、小型船舶用救命胴衣等の性能要件は、法令等で規定されている。

○国内の主な規格・基準等

名称 (承認/鑑定/認定)	小型船舶用救命胴衣等の型式承認試験基準 (国土交通省)	レジャー用ライフジャケットの性能確認試験基準 (日本小型船舶検査機構)	RAC 川育ライフジャケット認定規則 (川に学ぶ体験活動協議会)
マーク	 桜マーク	 性能鑑定済マーク (CS マーク)	 RAC 川育ライフジャケット認定マーク
構造	固型式、膨脹式ほか	固型式のみ	固型式のみ
区分等	TYPE A～G : 船舶種類や航行区域等別 小児用 : 体重別	大人用 : L1～L3 使用目的や使用環境別 子供用 : LC1、LC2 体重別	大人用 : R1～R3 想定エリア別 子供用、乳児用 : 区分なし
浮力	小型船舶用救命胴衣 TYPE A～F : 7.5kg 以上 小型船舶用浮力補助具 TYPE G : 5.85kg 以上	大人用 L1 : 11.7 kg 以上 L2 : 7.5 kg 以上 L3 : 5.85kg 以上	大人用 R1 : 11.7 kg 以上 R2 : 7.5 kg 以上 R3 : 5.85kg 以上
	小児用 7.5kg 以上 (体重 40kg 以上) 5 kg 以上 (体重 15kg 以上 40kg 未満) 4 kg 以上 (体重 15kg 未満)	子供用 LC1 : 5kg 以上 (体重 15kg 以上 40kg 未満) LC2 : 4kg 以上 (体重 15kg 未満)	子供用、幼児用 4 kg 以上 幼児用は、頭部の浮力補助用のピローが背面首元に付属すること。
色	指定あり(TYPE A～C のみ)	指定なし	指定なし

＜行政機関等の取組＞

○注意喚起、ライフジャケット着用促進の取組等

国土交通省

- ・ウェブページで小型船舶用のライフジャケットの種類や特徴、安全基準等を紹介。また、「河川水難事故防止ポータルサイト」で、川遊びでの着用推奨や Q&A 等を掲載。

海上保安庁

- ・ライフジャケットの着用体験会など海難防止に関する様々な啓発活動を実施。また、ウォーターアクティビティに関する総合安全情報サイトでは、ライフジャケットの種類、つけ方などをイラストや動画等で紹介。

東京都

- ・子供の事故防止に関する啓発誌内やウェブページ等で、水辺で遊ぶ際のライフジャケットの着用を推奨。また、平成 30 年度に「子供用ライフジャケット」について、アンケート調査や浮力試験等を実施。

4 海外情報（資料4）

○海外における状況、規格・基準等

対象：アメリカ（ニューヨーク州）、イギリス、フランス、オーストラリア（ニューサウスウェールズ州）の 4 か国

＜レジャー時のライフジャケット着用義務＞

各国とも、主にカヌーやカヤックを含む船舶乗船時に着用義務あり。

※船舶の種類又はレジャーの内容等によって対象年齢や浮力基準が異なる。

乗船を伴わない水辺のレジャー（一部除く）は、着用義務は確認されず。

＜規格・基準＞

米国：UL 12402、欧州：EN ISO 12402、豪州：AS 4758

いずれも ISO12402 をベースとした規格であることから、細かい諸条件に違いはあるものの、試験方法や要件に大きな差は見られなかった。

＜着用の啓発＞

各国とも、マリナーレジャーや乗船時の安全対策としてライフジャケットの着用に関する安全啓発を行っている。ウェブでは、着用推奨理由、種類（マークやレベル、各種機能等）、選び方等を情報発信している。

5 着用状況の実地調査結果（資料5）

<調査概要>

○調査場所

都内 10 か所

場所		特徴	
川	6 か所	流れあり	4 か所
		流れあまりなし	2 か所
湖	1 か所	流れあまりなし	1 か所
海	3 か所	砂浜（一部岩場等あり）	2 か所
		岩場（人工的な磯）	1 か所

○調査日

令和 6 年 5 月の連休、7 月の休日及び 8 月の休日（1 か所あたり 2 回観測）

<調査結果>

○観測者数

918 人（水遊び・遊泳 553 人、釣り 101 人、ボート 264 人）

○ライフジャケット着用率

活動内容		年齢層	
水遊び・遊泳 （釣り、ボート以外）	13.0%	一般（概ね中学生以上）	2.5%
		子供（概ね小学生以下）	21.3%
釣り （ボート上を除く）	7.9%	一般（概ね中学生以上）	8.9%
		子供（概ね小学生以下）	4.5%
ボート （カヌー、SUP※等）	90.9%	一般（概ね中学生以上）	90.4%
		子供（概ね小学生以下）	96.0%

※ スタンドアップパドルボード：サーフボードのような大き目のボードの上に立ち、パドルを漕ぎ移動する水上のレジャー

〔着用率の傾向〕

- ・「ボート」では着用率が比較的高い。「水遊び・遊泳」、「釣り」では低い。
- ・「釣り」、「ボート」では、年齢層による着用率の違いはあまりない。
- ・「水遊び・遊泳」では、子供（概ね小学生以下）と比べ、一般（概ね中学生以上）の着用率が低い。

考えられる課題

- 着用義務がない水辺のレジャー活動でのライフジャケットの着用率は低い

【アンケート等】消費者の現状等の把握

- ・着用しない理由
- ・着用実態（レジャー別の着用率、着用している種類等）
- ・消費者のライフジャケットへの認識・需要

【検証実験】ライフジャケットの安全性等の検証

⇒ 着用率向上のための方策等について、協議会で議論・検討

6 アンケート調査案（資料6）

- 対象：東京都※に在住し、およそ過去 5 年間に、海、川、湖、池等の自然環境で水辺のレジャー活動の経験がある 18 歳以上 2,000 人（※ 対象人数の確保状況により、一都三県に拡大する可能性あり）

- 方法：インターネットアンケート調査

- 調査項目：ライフジャケットの所有状況・着用実態
水辺でのレジャー活動時の危害、ヒヤリ・ハット経験の事例
ライフジャケットの正しい使用方法の認知
ライフジャケットに関する意見・要望

7 検証実験案（資料7）

<実験内容>

- ライフジャケットの安全性等の検証

固型式のライフジャケットを用い、「レジャー用のライフジャケットの性能確認試験基準」等を参考にした試験を実施。（浮力試験、浮遊試験、強度試験等）